

## 中学生の登校への動機づけによる出欠席状況の差異

○茅野理恵 (信州大学)

五十嵐哲也 (兵庫教育大学)

キーワード：登校への動機づけ，出欠席状況，中学生

### 問題と目的

先に報告した通り，小学生では RAI (Relative Autonomy Index) を用いた視点から登校への動機づけを検討したところ，RAI が高い者の方が実際の遅刻回数が少ないという結果が得られた。その結果や五十嵐・茅野 (2019) を踏まえても，小学生においては RAI を用いた視点から登校への動機づけを検討することの有用性が示唆されたと言える。しかし，中学生については実際の出欠席状況との関連はいまだ検討されていない。そこで本研究では，中学生の登校への動機づけを RAI の観点から検討し，出欠席状況との関連を検証することを目的とする。

### 方 法

**調査対象** 調査対象は A 県内の中学校 2 校の中学生 1～3 年生 706 名 (1 年生男子 103 名，1 年生女子 120 名，2 年生男子 124 名，2 年生女子 118 名，3 年生男子 123 名，3 年生女子 118 名) であった。

**調査内容** (1) 登校への動機づけ尺度 (五十嵐・茅野，2018)：「外的理由」「取入れ的理由」「同一化的理由」「内発的理由」の 4 因子から成る。4 件法。この尺度をもとに，岡田 (2005) などが示す計算式  $(-2 \times \text{外的理由}) + (-1 \times \text{取入れ的理由}) + (1 \times \text{同一化的理由}) + (2 \times \text{内発的理由})$  を用いて，RAI を算出する。取り得る値の範囲は，-9 ～ +9 である。(2) 出席・遅刻・早退の状況：本間 (2000) を参考に，自己報告によって調査することとした。具体的には，「0 日」「1～5 日」「6～10 日」「11～20 日」「21 日～30 日」「31 日以上」から選択させた。

**調査時期および実施方法** 2016 年 10 月上旬～12 月中旬に，学級内において，調査協力者である担任が無記名で一斉に実施し，その場で回答・回収された。

### 結果と考察

#### RAI による群分け

まず，対象者の RAI を算出し，それをもとに対象者を群分けすることとした。群分けにあたっては，まず RAI が負の値である者を抽出した。その後，RAI の正の値の中央値である 4.5 を基準に対象者をさらに群分けした。その結果，RAI が負の値である者 (外的動機づけ傾向群) が 96 名，RAI が 0.0～4.5 である者 (内的動機づけ傾向低群) が

269 名，RAI が 4.5～9.0 である者 (内的動機づけ傾向高群) が 341 名であった。

#### RAI 群による出欠席状況の違い

RAI 群によって出欠席状況に違いがあるかを明らかにするため，クロス集計を行い，フィッシャーの正確確率検定を行った。その結果，出席日数については，出現率に有意な差が認められ ( $p < .001$ , Table1)，調整済み残差分析を行ったところ，外的動機づけ傾向群は「6～10 日」「21～30 日」が多く，内的動機づけ傾向低群は「1～5 日」「11～20 日」が多く，内的動機づけ傾向高群は「0 日」が多かった。一方で，遅刻回数についても出現率に有意な差が認められ ( $p < .001$ )，調整済み残差分析を行ったところ，外的動機づけ傾向群は「11～20 日」「21～30 日」「31 日以上」が多く，内的動機づけ傾向高群は「0 日」が多かった。さらに，早退回数についても出現率に有意な差が認められ ( $p < .001$ )，調整済み残差分析を行ったところ，外的動機づけ傾向群は「6～10 日」「21～30 日」が多く，内的動機づけ傾向高群は「0 日」が多かった。以上より，登校への動機づけは，中学生においても，実際の出欠席状況に対しても関与する可能性が示唆された。特に，その傾向は小学生に比して顕著に示されたと考えられる。

Table1 登校への動機づけ群による欠席日数の違い

|            |        | 欠席日数 |      |       |        |         |       |
|------------|--------|------|------|-------|--------|---------|-------|
|            |        | 0日   | 1～5日 | 6～10日 | 11～20日 | 21日～30日 | 31日以上 |
| 外的動機づけ傾向群  | 度数     | 51   | 36   | 8     | 0      | 1       | 0     |
|            | 調整済み残差 | -2.9 | 1.5  | 4.3   | -0.7   | 2.5     | -0.4  |
| 内的動機づけ傾向低群 | 度数     | 164  | 95   | 6     | 3      | 0       | 1     |
|            | 調整済み残差 | -2.3 | 2.1  | -0.1  | 2.2    | -0.8    | 1.3   |
| 内的動機づけ傾向高群 | 度数     | 253  | 86   | 2     | 0      | 0       | 0     |
|            | 調整済み残差 | 4.3  | -3.1 | -2.9  | -1.7   | -1.0    | -1.0  |